

が広がり、道は、だんだんかためられていきました。

新しい珠算を広めるために各地をまわっていくと、いろいろなところで、こつこつと研究している人々にも出会いました。伊策は、それらの人の研究を聞いて教えられることもあり、それを自分の研究に生かしていきました。研究は休むことなく続けられていくのでした。

昭和十一年に、伊策は自分の計算のしかたから考えた星式計算器を作つて特許をとりました。晩年になつても、珠算の本の出版や数学の先輩の研究に力をそそぎ、さらに魔方陣の研究など、伊策の勉強はおとろえをみせません。

昭和二十八年（一九五三年）、伊策は福島県から第二回の文化功労賞をうけました。文化の日に行われた表彰式には、いろいろな受賞者の代表にえらばれて感謝のことはをのべました。

この年から、昭和三十五年（一九六〇年）までの間に、榎原町、会津若松商